

平成24年度 磐田市放課後子どもプラン推進事業運営委員会記録

日 時：平成25年3月13日（水） 午後7時～午後8時

場 所：磐田市役所西庁舎 302会議室

出席者：委員12人中11人出席

飯田 稔委員長、加藤ゆう子副委員長、内田明秀委員、寺田義昭委員

匂坂 滋委員、鈴木俊博委員、菅原百合子委員、鈴木哲也委員、山口智子委員

西岡都子委員、西尾さとみ委員

事務局：教育総務課 高梨参事、今井主査

学校教育課 伊藤容子

会議の概要

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

以下(1)から(3)について、事務局から説明後、質疑・応答、意見交換を行い、放課後児童クラブおよび放課後子ども教室の事業計画、連携等について確認した。

【説明の要旨】

- (1) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の事業報告・事業計画について

放課後児童クラブ

平成23年度事業報告として、23小学校区30箇所のクラブを開所した。受入児童数の平均見込み人数は883人で、年間で最大となるのは夏休み利用者の921人である。運営は、1クラブのみ地区社協に委託、その他は市の直営である。市で雇用する指導員は81人で、年間を通じ必要な研修を実施した。また、各種団体、個人の協力のもと、夏休みを中心に各種講座を開催した。

平成25年度事業計画として、平成26年4月豊岡北小と豊岡東小が統合した場合、豊岡北小において現在クラブ室として利用している教室を普通教室に変更し、新たに豊岡北小敷地内にクラブ棟を設置する予定である。放課後児童クラブの運営については、平成24年度と大きな変更はない。

放課後子ども教室

平成24年度事業報告として、福田地区、竜洋地区、豊田地区の6つの小学校区

で放課後子ども教室を開催した。運営方法は講座方式、教室方式、活動方式と各地区で異なっているが、いずれの地区も参加率は高い。また、骨折事故が1件発生した。

平成25年度事業計画として、新たに豊田東小学校でライフスキル教育に基づいた教室の開催を予定している。また、福田地区において、参加者数や指導員の状況から、一部講座については、福田小と豊浜小合同で「福田小・豊浜小遊びの宝島」を実施する。児童クラブとの連携では、放課後児童クラブを利用する児童の放課後子ども教室参加の充実を検討したい。

(2) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携（「磐田市放課後子どもプラン」）について

昨年8月に子ども・子育て関連3法が公布され、放課後児童クラブは、地域子ども・子育て支援事業のひとつとされ、保護者のニーズや国から示される基準等を参考に、需要見込量、提供体制の確保の内容及びその実施時期等を盛り込んだ市町村子ども子育て支援事業計画を策定し、その計画のもとに事業を実施することが求められている。

このような状況の中、来年度における放課後児童クラブの運営は、基本的に今までの運営を継続し、放課後子どもプランにおいても、これまでと同様、児童クラブの在籍児童の教室への参加促進や指導員派遣等の交流といった連携を継続していきたい。

【主な質疑応答】

Q： 放課後子ども教室について、豊田東小以外で新たに取組む予定はないか。

A： 新たに取組む予定はない。また、設置希望も聞いていない。新たに設置する場合、指導員の確保が課題となる。現在実施している子ども教室においても、指導員の確保が難しい状況となっている。

Q： 市町村子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、こどもプランの磐田モデルの推進を図るのか。

A： 子ども・子育て関連3法の中では、放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携については具体的な方向性は示されていない。

放課後児童クラブは子育て支援の事業として法定され、今後国から示される基本的な指針やニーズ調査等の結果を踏まえ、市町村子ども・子育て支援事業計画を策定する。

放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携については、国における基本的な考え方に大きな変更はないものと考え、今後も各地区における両事業の開催状況等に

応じた連携を図っていききたい。

Q： 放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携の実態は。

A： 放課後児童クラブ利用者の放課後子ども教室の参加について、昨年度と比べ減少しているところもある。

指導員の協力体制では、青城小学校において、放課後児童クラブの指導員が年5回放課後子ども教室に児童と一緒に参加している。指導員は人数の確認などできる範囲の中で協力している。

なお、放課子ども教室の指導員が放課後児童クラブにおいて活動することはないが、今後連携を推進する中で検討していききたい。

【主な意見交換】

青少年健全育成や地区公民館など、教育委員会だけでなく、地域の力・市全体で子育て環境の充実を進めていくことが必要である。

放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携を実践し、計画的に児童クラブの子が子ども教室に参加させた。結果として子ども教室に参加したいという子も出てきた。

各地区で放課後児童クラブと放課後子ども教室の開催状況が異なるため、同じような連携は難しいが、その中で出来る連携を実施することが必要となる。

4 閉 会